

NPO 法人沖縄伝承話資料センターだより

# はにんす 33号



今帰仁村越地で梅の花を見つけた。家主曰く「苗を植えて12年、やっとこのように咲きました。実がなるのが楽しみです」と。梅の花の花言葉は「高潔」「忍耐」「忠実」だそうです。さらに白梅は「気品」。今年も、忍耐強く忠実に気品ある活動を続けましょう！

## 沖縄の民話記録をどう活用するか

NPO 法人沖縄伝承話資料センター二〇周年記念講演会（第三弾）

講師：樋口 淳（ひぐち あつし）  
専修大学名誉教授・当センター理事

二〇二六年一月二四日（土）十三時三〇分から岐阜女子大学沖縄サテライト校（沖縄女子短期大学内）で、NPO 法人沖縄伝承話資料センター二〇周年記念講演会（第三弾）を開催した。今回の講演会は岐阜女子大学大学院沖縄サテライト校との共催により実現したもので、同校で学ぶ教師やアーキビストを目指す学生たちと共に九〇分の二コマを使って沖縄の伝承話の現状と課題について考えた。

一時限目の講師は当センター理事である樋口淳先生が務めた。樋口先生は沖縄伝承話データベースを中心になって作成しており、その成果から「沖縄の民話記

録をどう活用するか？」というテーマで講演した。講演の中で樋口先生は、これまでに沖縄の民話（伝承話）がどのように記録されてきて、それが今、どのように保存・活用されているのかを具体的な例を挙げて説明した。

一九七〇年代から始まった沖縄の民話の記録は、話者の音声をカセットテープに残しながら同時に梗概と話者の情報をカードに記録しており、そのスタイルを三〇数年間続けたことに大きな意義があり、データベース作成の際にも大いに役立つと述べた。

保存・活用の例として挙げたのが沖縄県立博物館・美術館の

「ウチナー民話のへや」。その中にはデータベースで作成したデータが約三万三千件保存されていて、それは誰でも見ることができるようになっていて、紹介した。その他に粟国村や読谷村の民話資料のデータベースが充実していることを紹介した。

二時限目には、当センター理事長の比嘉が、センターの活動の中から「沖縄伝承話の旅」について紹介し、副理事長の大田が民話の語りを交えながら、「沖縄の民話の特徴」などを紹介した。

進行は、岐阜女子大学准教授の加藤真由美先生が務め、閉会のあいさつを同校教授の久世均先生が行った。感謝！



佐渡山美智子さんに聞く！

創作民話劇

## 「鬼慶良間」の

取り組みについて

昨年十一月二三日、NPO法人沖縄伝承話資料センターの二〇周年記念特別鑑賞会として、「創作民話劇 鬼慶良間」を沖縄国際大学日本文化学科の一年次のみなさんに上演してもらった。この劇が沖縄国際大学の講義の中で取り組まれるようになってから三四年になるという。指導していた遠藤先生が大学を退いた後、渡辺春美先生を経て、今、その講義を担当しているのがフリーアナウンサーの佐渡山美智子さんである。佐渡山さんが渡辺先生から引き継いで二年になるという。その取り組みの内容について、佐渡山さんからお話を聞いた。

NPO法人沖縄伝承話資料センター創立20周年記念  
特別鑑賞会  
創作民話劇 「上 渡辺春美先生 佐渡山美智子 年次」  
**鬼慶良間**  
2025年（令和7年）  
11月23日（日）  
13時開演  
12時30分開場  
沖縄国際大学  
厚生会館4階ホール  
【入場無料】  
沖縄国際大学日本文化学科「年次創作民話劇」鑑賞会として、遠藤春美先生から引き継いだ佐渡山美智子さんが、沖縄国際大学日本文化学科の一年次のみなさんに上演してもらった。この劇が沖縄国際大学の講義の中で取り組まれるようになってから三四年になるという。指導していた遠藤先生が大学を退いた後、渡辺春美先生を経て、今、その講義を担当しているのがフリーアナウンサーの佐渡山美智子さんである。佐渡山さんが渡辺先生から引き継いで二年になるという。その取り組みの内容について、佐渡山さんからお話を聞いた。

主催：NPO法人沖縄伝承話資料センター（098-890-2455）

## 「脚本一つだけ」

私が渡辺先生から渡されたのは脚本一つだけ。「好きにやって下さい」と言って、「鬼慶良間」の脚本を渡された。

その講義は、元々国語科教育法の授業の一環として行われていたもので、国語科教育法を担当する先生が受け持っていた。国語科教育法を受け持っていた遠藤先生が「教師たるもの演劇の指導ができないでどうする」と言って、「大きな声を出せる」「はっきりと発音できる」「表現できる」教師を育成するために立ち上げた講義だと聞いている。遠藤先生が学校劇研究会に関わっていた頃だと思う。

遠藤先生が退いた後は渡辺先生が担当していた。その渡辺先生から朗読の外部講師として私に声をかけてくれたことがあった。そのときに私が演劇の経験があることを聞いて、先生が高知大学に異動になるときに「鬼慶良間」の脚本を渡されて今に至っている。

## 日本語表現法演習Ⅰ

現在、私が担当している講義は、日本文化学科の日本語表現法演習Ⅰ・Ⅱとプロジェクト演習。他に企業システム学科のビジネスプレゼンテーションという講義も持っている。

「鬼慶良間」は日本語表現法演習Ⅰとプロジェクト演習の中で取り組んでいる。その二つは日本文化学科で教員免許取得を目指す学生の必須科目になっていて、前期で日本語表現法演習Ⅰを取っていないと後期のプロジェクト演習は受講できない。

前期の日本語表現法演習Ⅰでは、「外郎売り」を暗唱することが課題。ただ、それを一〇人で暗唱することになっていて、一〇人が声を合わせて暗唱できないと不合格になる。休学や退学の特別な理由がない限り、グループの一人でも欠けてはいけない。一〇〇人くらいが受講するので、例年一〇班くらいになる。中には受講しているのに来ない学生もいる。それで頑張っている学生は、「なぜ、私たちがあおりを受けないといけないのか」と、泣いて不満を訴えてくる。そのときに、「みなさんは教師を目指してこの講義を受講している。誰一人切り捨てない、できない子を育てるのが教師の役割ではないか」ということを説明すると、みんな納得する。これまでに不合格になった班は一つもない。最後のテストの日に、まだ六班が合格できないという年もあつ

たが、成績評価提出までには、みんな合格した。この取り組みがないと「鬼慶良間」はできない。

## キヤスティング

その講義の終わり頃（七月初旬）に「鬼慶良間」の脚本を渡して、その中から自分の好きなセリフを選び、それを演じるつもりでセリフを言って、それを動画に撮って提出してもらっている。その動画を見て配役を決める。決めるのは前の年に「鬼慶良間」を演じた二年生たち。演出を担当した学生が中心になって役を決める。それを演習Ⅰの講義の中で発表してもらっている。



## ゼロからのスタート

二年生に講義にきてもらうのは二回。もう一回は「鬼慶良間」を上演した体験談を語ってもらっている。そのときに絶対に具体的なことは伝えないルールになっている。

それは私が受け持つてから二、三年後くらいに学生たちと決めたルールで、「活動の痕跡を残さないこと」にしている。だから動画をアップすることはしていない。「ゼロから作り上げていく」ことが大切だから。その経験こそが大切だから。今でも毎年そのことを学生たちと確認しているが、決まって「ゼロから始めるのがいいです」という。一つの脚本をみんなで解釈して、話し合って、工夫して上演している。だから毎年違う「鬼慶良間」を観ることになる。脚本は全くさわっていない。打ち直してもいない。

## プロジェクト演習

配役が決まり、いよいよ後期の授業であるプロジェクト演習で「鬼慶良間」の上演に向けた取り組みが始まるが、その取り組み方も毎年違う。最初からまとまっている年もあれば、ぎりぎりまで不安な年もある。

主役級が最後までセリフを覚えきれないということもあったが、代役を立てたり、切り捨てるということはいけないうことになっているので、みんなで粘り強く引つ張って、最後はやり遂げている。最後の十日間だけいっしょけんめいに取り組んで一番やり切った気分になる学生もいる。中には「鬼慶良間」だけをやりきっていて、終わると大学を辞める学生もいる。

## 脚本「鬼慶良間」

「鬼慶良間」はとてもよくできた脚本だと思う。一場では、沖繩

の自然や神々の信仰を題材にしていて、二場では、渡嘉敷島に伝わる民話を題材に構成され、三場で沖繩戦を扱いながら民話の持つ力が示している。場面を通して平和を軸に構成されたすばらしい脚本だと思う。

基本的にセリフは脚本のまま演じる。二場ではアドリブも入れることがあるが、それでも脚本の内容に沿っているかをみんなでも検討している。演出プランについても同様。

私は毎年見ているので伝えようと思えば伝えられるが、伝えなくてみんなに考えてもらうことにしている。「教えない教え」がある。この取り組みがいつまで続くかはわからないが、来年度の継続は決まっている（以上）。

お話を聞いて、改めて素晴らしい教育活動だと思った。できる限り継続してほしい。沖繩国際大学、あつぱれ！

## ご案内

# NPO法人沖縄伝承話資料センター20周年記念祝賀会 及び遠藤庄治先生没後20年の集い

会員のみなさまをはじめ、多くの関係者の方々のお力添えのおかげを持ちまして、当センターは2026年1月16日に20周年を迎えました。あっという間の20年です。

その20年を祝うために、下記及びご案内のとおり、20周年記念祝賀会を開催します。これまでの活動を振り返り、これからの飛躍について、みんなで語り合いたいと思います。わずか3時間で語り尽くせるとは思いませんが、私たちが沖縄の多くの先輩方からお預かりしている貴重な伝承話をどのように未来につないでいくか？みんなで語り合いましょう。必ずご出席下さい。

なお当日は、初代理事長・遠藤庄治の命日でもあります。

### 記

日時：2026年（令和8年）**3月20日（金・春分の日）** 15時～18時

場所：**沖縄国際大学厚生会館4階ホール**

会費：3,000円（当日徴収します）

※食事の用意がありますので、2月27日（金）までに出席の可否をご連絡下さい。

連絡先：NPO法人沖縄伝承話資料センター

〒901-2214 宜野湾市我如古2-4-15（301）

☎ 098-890-2455（FAX兼）

Mail：denshow1@at.au-hikari.ne.jp

### ■会費の納入よろしくお願ひします！

#### ①ゆうちょ銀行

口座番号：01760-0-78884

#### ②沖縄銀行宜野湾支店

口座番号：1371606

口座名義は下記のとおり

特定非営利活動法人

沖縄伝承話資料センター



2006年8月29日、沖縄国際大学厚生会館4階で。